

シルクロード文化観光ウィーク 2月24日から開催



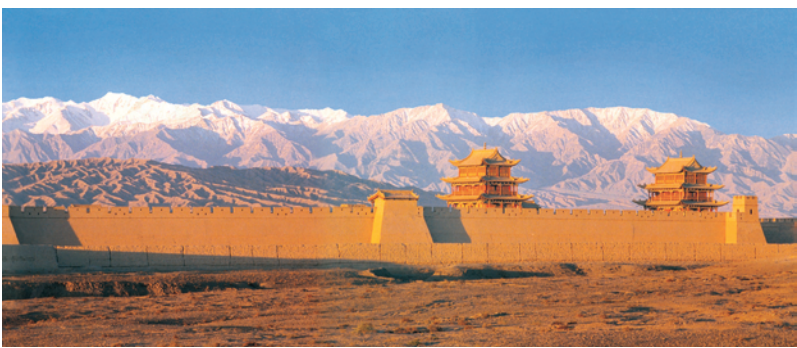
敦煌鳴沙山・月牙泉景区

敦煌市近郊の月牙泉（三日月湖）は鳴沙山（砂漠）のオアシス。数千年前から絶えることなく湧き続けているという泉。



張掖丹霞

赤い堆積岩で形成されたカルスト地形。甘粛省張掖市の近郊に位置し、「東洋のグランドキャニオン」と呼ばれることもある。



嘉峪関

甘粛省嘉峪関市の嘉峪関は、古いシルクロードの交通要道で、明朝の万里長城の西端の起点。河西第一の関所として「天下第一雄席」と呼ばれた。

スポット

シルクロードは、西安に端を発し、甘粛省、青海省、新疆を経て中央アジアやヨーロッパへとつながった古代のシルクロード。世界の中のオアシスが点在し、シルクロードの東端を形成する。

ここでは甘粛省のシルクロードの主な観光地とシルクロードの紹介に加えて、JTB、日経カルチャーのシルクロードツアー企画担当者へのインタビューを掲載。シルクロードツアーのベテラン添乗員による無料講演会も案内する。

また、今月24日から28日までの日程で、東京・港区の東京中国文化センターで開催される「シルクロード文化観光ウィーク」及び「長安精神―中国書画展―」に合わせて来日し、作品を展示する書画家とその作品についても合わせて紹介する。



蘭州ラーメン

牛肉のあっさりとしたスープに、コシのある手打ちで伸ばした麺を入れた料理で、豚肉を使わない清真料理として知られる。具材には牛肉とネギ、パクチーを入れたのが一般的で、好みでトウガラシやニンニク、ラー油等をトッピングする。



黄金瓜（マクワウリ）

果皮の黄色が特徴的で、中の果肉は白く、さっぱりとした甘さで梨のような触感に近い。夏場になると街のいたるところで売られているポピュラーな果物。

「ユーラシア大陸横断バスの旅」の魅力 車窓の景色が素晴らしい

インタビュー



JTB首都圏
ロイヤルロード銀座事業部
営業担当課長
藤崎みほさん

「1回目は「シルクロードをひたすら陸路で、バスでのんびり旅しよう」というコンセプトで、西安からイスตันบูลを目指して50日間のツアーでした。07年以降、政治不安などにより取り扱いは見合わせましたが、ルートは西安からローマに伸ばし、1万5千キロを60日間、陸路で走破する旅として12年秋からツアーを再開しました。13年春・秋、そして14年春と順調に回を重ね、シリーズとしては延べ350人以上のお客さまに参加いただきました」

参加者の年齢層や性別などの比率は、「ツアーの期間が長いので、仕事をリタイアされた人、60代後半から70代までの人が中心です。男女比率は平均すると、男性6割、女性4割くらいです」

「感想としては、「ホテルの前でバスに乗りさえすれば次の目的地に行くことができる」「道路の移動がともなう旅よりも体が楽」「バス旅ならではの、気軽にバスを止めて興味のあるものを見る、途中下車の時間も楽しい」などです」

ツアーを企画する上で、このツアーのスタート時の企画メンバーの一人であり、全線添乗を行う三村忍氏を中心に、ルートに精通する複数のスタッフの意見、現地関係者の意見を織り交ぜながら、日程を決定しています。お客さまの感想、意見は次のツアーで反映します」

「ツアー最中の配車は、「体調管理のために、食事

の調整はお客さまの様子をみながら極力現地で行っています。お客さまには疲れをためず、光をバスで休憩し、決して無理しないことを徹底していただいています」

シルクロード中国エリアでの旅行中のお勧めは、「このツアー、このルートの魅力は、シルクロード沿いの珠玉の遺跡見学もできることながら、移りゆく車窓の景色、自然がダイナミックで素晴らしいことです。中国から中央アジアへ、どこまでも続く天山山脈など、忘れ難い景色となります。春のツアーは咲きほほの花々を見、秋のツアーはたわわに実った果物を味わうお楽しみも。ツアーの全線を通じて食事の評価が一番高いのは中国です。料理の品数も多く、また、口に合うこと、さらに野菜が豊富に食べられることも高評価の要因です」

中国国家旅游局講演会

「2012・13年中国・シルクロードNOW」
日時：2月26日（水）午後4～5時／講演 午後5～6時／交流会
場所：東京中国文化センター（港区虎ノ門3-5-1 37森ビル1F）
講師：二村忍氏（ユーラシア企画代表）

2012年9月以降、中国の旅行は冷え込んでいます。そんな中、JTBロイヤルロード主催の「新ユーラシア大陸横断」のツアーで、中国のシルクロード地域を3回も旅しました。マスコミは政治・経済的なことでしか報道しないため、実際の現地事情はなかなか分かりません。そこで実際に私が見た、お客さんが感じたシルクロードNOWをお伝えし、併せて訪れる機会の少ない自然風景も紹介します。



1959年東京生 琉球大学卒業（80～81年台湾留学）
1983年中国・シルクロードを初訪問、1985～86年JTB北京・上海駐在員。
1995年～JTB主催「ユーラシア大陸横断バスの旅」を企画・添乗
2006年ナショナルジオグラフィック写真コンテスト優秀賞受賞
（その他、関野吉晴氏のグレートジャーニー、戸井十月氏のユーラシア大陸横断などに関わる）
現在まで世界約100カ国、約40万キロ（地球を10周）、中国全土を走破



パインブルグ



祁連山脈

「敦煌莫高窟ツアー」の魅力 未公開窟を研究員が案内

インタビュー



日経カルチャー
海外旅行企画・販促担当部長
仲矢慎司さん

「御社の「敦煌莫高窟ツアー」の概要や企画に至った経緯について」

「日本経済新聞社と日経カルチャーは約30年前から現在まで敦煌研究院からの留学生を受け入れており、その特別な友好関係から特別有料ツアーだけでなく、全くの「未公開窟」も日本への留学経験のある敦煌研究院の研究員の案内でご覧いただくことができます。これは、我々日経カルチャーだけにしかできない

「特別な」内容は、「一般的なツアーでは追加代金を払って見学する、いわゆる『有料特別窟』の見学を特別見学表に記していますが、当社では有料特別窟にも含まれない本当の「未公開窟」をご覧いただけます。未公開窟の特別見学だけでは考えられないような敦煌研究院からの留学生の厚い「見学箇所、時間の自由さ、研究員からの説明など」に驚かれ、このツアーに決まりました」

「敦煌の魅力について」

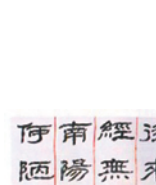
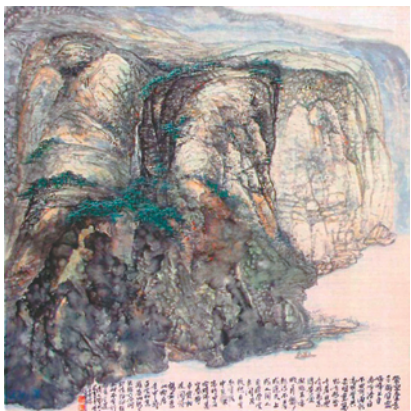
「仏教美術といった視点だけでなく、さまざまな壁画からは当時の人々の生活の様子や考え方、街の様子などにも思いをはせることができる点です」



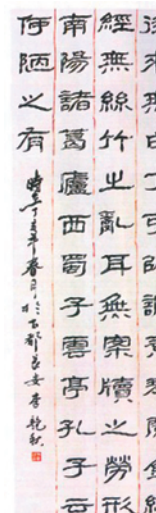
馬繼忠
中国美術家協会会員、教授、西安文史館館員、中国書画篆刻家協会副主席、西安文理学院馬繼忠工作室指導教師。



宋亜平
中国美術家協会理事、国家一级美術師、陝西省美術家協会副主席、陝西省山水畫研究会副主席。



李永強
中国書道協会会員、中国書道協会婦女委員會委員、陝西省書道家協會常務副主席、国家一级美術師。



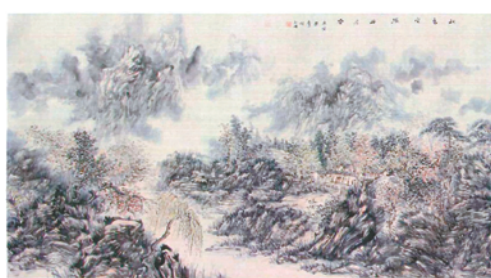
鄭成文
中国美術家協会會員、劉大為工作室畫家、陝西國画院特聘畫家、西安中国画院畫家。作品『鄉音』が全国第8回美術作品展に入選。



張超
長安中国山水画院常務副院長、西安市山水画院副院長、陝西省文化藝術委員會副主任、西安中国画院畫家。



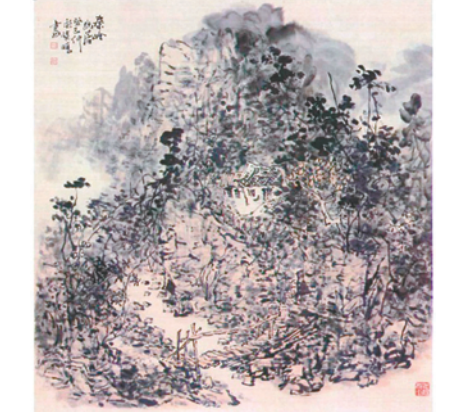
何正明
陝西省美術家協会會員、中原書画院特聘教授。



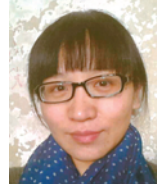
郭董
陝西省文史研究館書道研究員、西安中国画院畫家、陝西省美術家協会會員。



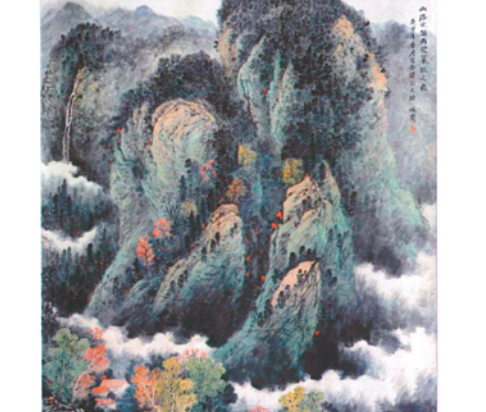
李曉鵬
陝西省美術家協会會員。作品が相次いで全国青年美術展、广州芸術博覧會に入選。



賈宗明
丹江口市美術家協会副主席兼秘書長、中国美術家協会陝西分會會員。



梁咏莉
西南大学美術學院美術學士、陝西省美術家協会會員、宝鶏職工美術協會理事。



中国書画展

2月24日(月)午後3時／開幕式

場所：東京中国文化センター